

2016/17 WEEKLY BULLETIN



国際ロータリー第 2790 地区第 3 分区B

市原ロータリークラブ会報



第 2588 回例会 2017 年 4 月 5 日 (水) SAA (司会) / 高澤会員 会報担当 / 杉井会員

事務局 市原市五井中央西 1-22-25 市原商工会議所 2F 例会場 五井グランドホテル

- 点 鐘 市原 RC 会長 西村芳雄
- ソング 国歌君が代 奉仕の理想 四つのテスト
- お客様 成田 RC 設楽正行様、松田泰長様、石橋菊太郎様
千葉北 RC 石井七郎様
鈴鹿シティー RC 小川一光様
- 会長挨拶 市原 RC 会長 西村芳雄



月28日に第1回目の委員会を開催しました。CLPを導入するには、それを実践し成功したクラブに行って話を伺うのが一番分かりやすいのではということで、5月29日成田クラブに、上條会員・宮地会長・万崎エレクトとノミニーの私の4人で訪問しました。そして、例会終了後に別室にて懇切丁寧に教えを受けました。また、6月16日には前橋クラブを訪問し、本田様達からもご指南を受けました。その後、皆様ご承知のように、8月に「クラブ活力テスト」を、11月には「会員満足度アンケート」を実施し、また、項目ごとのテーブルディスカッションなどを行ってきました。しかしながら、緒についたようなものでまだまだ成果が上がっているとは言えません。今日は、設楽さんの卓話を聞いていただいた後で質疑応答の時間とっておりますので、より理解を深めていけるのではないかと思います。

次に、地域社会貢献基金についての話です。応募書類の作成が少し難しいのではという提案があり、前年度は募集を中止し、募集要項を改訂しました。そして、それに基づき今年度は4団体に総額50万円を支援しております。この度、始関社会奉仕委員長より、運用面において現行の規定では将来そぐわない点が予想されるので改訂した方が良いのでは、との提案がありました。そこで、特別委員会を設置しその改訂案の作成に着手することになりました。その委員会委員には、社会奉仕委員会より始関会員・平野会員・三宅会員と現年度会長・幹事の私と岡本会員そして次年度会長・幹事の山本会員・高澤会員の7名で決まりましたので報告します。

今日は、時間配分の都合がありますので、これで会長挨拶を終わります。有難うございました。

幹事報告

1. 本日 11 時より理事会が開催されましたので、報告致します。
 - (1) 5 月のプログラムが承認されました。
 - (2) 新規入会希望者の星 マリコさんが承認されましたので、本日 会員の皆様に賛否をお諮りしますので、用紙にご記入の上ご提出下さい。
 - (3) 市原中央ロータリークラブ 30 周年記念式典は全員登録と致します。出欠は既に案内をお送りしておりますので、ご回答をお願い致します。
 - (4) 地域社会貢献基金の規定検討委員会の設置が承認されました。委員は西村 (芳) 会員、岡本会員、山本会員、高澤会員、始

皆さん、こんにちは。

先ず、本日のお客様を紹介します。成田ロータリークラブの設楽正行様と石橋菊太郎様そして松田康長様です。お三方についてはフレンドリーな関係の方もおられるでしょうし、そうでなくても地区の協議会などでお名前やお顔はご存知のことと思います。成田クラブでは勿論のこと、地区の内外でもご活躍されておられますし、2007～08年度にCLPを導入されクラブの活性化に成功された方達です。そして次のお客様は、2013～14年度に当分区のガバナー補佐を務められました千葉北ロータリークラブの石井七郎様です。石井さんには当時随分とお世話になりましたし、次年度は是非ともご協力をお願いしなければなりません。そして最後になりましたが、準会員のような鈴鹿シティークラブの小川様です。小川さんにとりまして、今日は良い勉強になるのではと思っています。

さて、本日のメインプログラムはCLPについてですが、当クラブでの活動について参考までに振り返ってみます。今から2年ほど前の宮地年度の時に、CLPを取り入れクラブを活性化することになりました。そこで、9人の委員からなる長期計画委員会が設立され、平成27年4

関会員、平野会員、三宅会員の7名です。

(5) ロータリー財団グローバル補助金奨学生申込希望者の田中沙也加さん(市原市八幡在住)を地区に推薦しました。

申込期限間近での依頼でしたが、白鳥会員のご協力により間に合いました。ありがとうございました。

(6) 4月13日～18日の予定で姉妹クラブのペタリングジャヤRCに公式訪問する予定です。今回の主な目的は小児ガン患者を支援するプログラムに参加することです。プログラムのテーマ性から、市原RCより500ドルの寄付をすることになりました。参加者は西村会長夫妻、長田会員、小泉会員、岡本幹事の5名です。

2. 市原学友協会より後援承認申請が今年も来ましたので承認致します。

3. 市原市国際交流協会の市民活動センター3月31日に閉館となりました。移転先は未定で、決定次第通知が来ることになっております。

4. 旭ロータリークラブの会報が届きましたので、テーブル回覧致します。

5. 土浦南ロータリークラブ会員の方より、ご自身のお孫さんが心臓の手術を受けるための募金活動の協力案内が来ております。理事会に諮りました結果、会員の皆様個人のご判断とすることになりましたのでご報告致します。

委員会報告等

始関会員(社会奉仕委員会)5月開催「あいさつ運動」への協力依頼

山本会員(会長エレクト)次年度理事会役員の報告

本日のメインプログラム

成田 RC 設楽正行様による卓話

冒頭の設楽様による卓話に続き、石橋菊太郎様の司会によってCLPについての討議がQ&C形式で行われた。

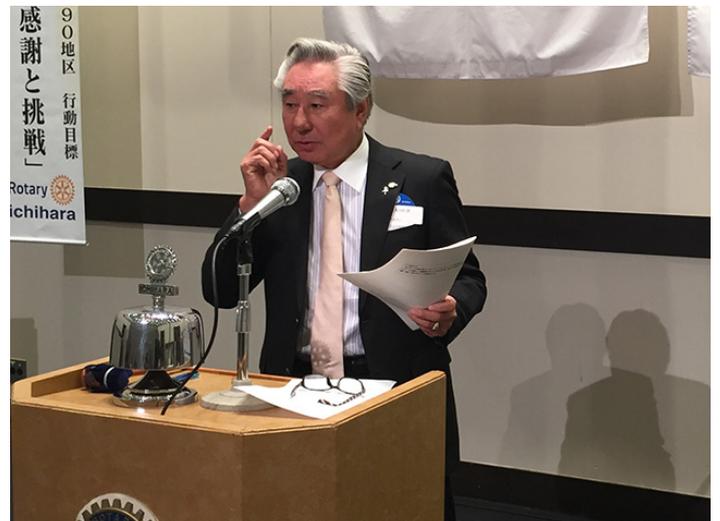


「市原 RC の CLP による組織の再構築にあたって」

平成 29 年 4 月 5 日 成田 RC 設楽正行

上條さんより市原 RC が CLP による組織を再度立ち上げるにあたって様々確認したいことがあるので卓話をお願いしたいとのことで、本日も伺いました。成田 RC はちょうど 10 年前に CLP による委員会構成を立ち上げましたが、その当時 G は当クラブの白、鳥さんであり、白鳥さんに相談をしたり、アドバイスを受けながら立ち上げたわけです。その意味では白鳥さんにお聞きの方がいいのかなと思いますが、身内より外部の方が説得力があるかもなと思います、おこがましく伺いました次第です。

本日石橋、松田と3人でお伺いいたしました。皆さんが CLP による組織で船出するに当たり、少し霧の中にいるようなおぼろげな感じ、少しの不安感があると思います。私どもも立ち上げる際は同じでありましたので、できるだけ正確にお話し、誤解の無きよう立ち上げ委員会の7人の中から3人で伺ったわけです。



そして、卓話時間の40分の中で最初の10分程度を皆様既に承知のことですが、CLPの肝や導入の失敗の要因についてや、10年後の現在の成田 RC の現状をお話し、その後皆様に採用1年目の反省をお渡ししてありますので、それを元に、あるいは何か不審の点につき、石橋の司会により私と松田そして市原 RC の皆様との双方向の討議を行いたいと思います。

さて、皆様には CLP なる組織で来期から始めるにあたってなんとなく不安を感じる方、活性化のために必要だと意気込む方それぞれだろうと思います。成田 RC も自信満々で船出したわけではありません。長い時間をかけましたが、本当に会員全員にご理解いただけたのか。本当に機能するのか、本当に活性化するのか等自信満々に見えるように振舞ってはいましたが内心は不安で一杯というのが本音でした。でもある先輩がこのように申されました。

R を良くするためには何でもやりましょう。やってみてダメなら元に戻せばいいのだから。この言葉に励まされ船出したことを思い出します。市原の皆様もこんな考えで気楽に始められたら良いかなと思います。次に既に CLP についてはおわかりになっていることと思いますが、ちょっ

とだけ、駆け足で振りかえってみたいと思います。

1・CLPのサイクルー資料参照

上條さんのお話にありましたが、すでに市原さんは活力度テストも満足度テストもいわゆるクラブの棚卸を行ったとのことですが、そこから表にありますようにCLPを採用したわけですが、活力が無い、充実感が無いなど不具合があると感じている会員が多いとの結論から採用したわけですがこの表のように定期的にテストを実施し、サイクルを良い流れとして行かなければと思います。最近の成田RCはこの種のテストよりも研修を重点に行っています。RLIによる研修会を行うことによりORへの知識、関わりを深くし、会員の満足度を得る方向としています。

2・CLPの肝

CLPがRIにおいて採用された背景は、先進国の会員数が減少してきたことへの危機感から、会社経営の要素を取り入れ、活性化しようという意図があります。それは長期計画に基づく短期の計画を立てPDCAのサイクルにより活性化を図ることを目指すものであります。

P（計画し）D（行動し）C（検証し）A（再構築する）とは戦後のアメリカにおいて提唱された経営手法であり、収益を上げるために社員全員の情報の共有化と目的達成のための指標を常に意識しながら行動することであり、現在日本では野村証券、ソフトバンクをはじめ多くの企業ががとり入れていることは有名であります。したがって、目標を立て行動し、その行動において未達の部分がどこか、なぜかチェックし、再構築の上、目標の達成をしていくことにより、組織が活性化するあるいは収益を上げるというサイクルとなります。このような視点から、CLPの肝を考えますに

- ① 1委員会の人数が多いことから、また2つの委員会に所属することから情報の共有化が図れ、全体を見ることから活動の一環性が確保できる。
- ② どのような組織もそれを運用するのは人であり、それぞれ能力の違いがあってもPDCAのサイクルを回すことにより自動的に成果が見えるかし、迅速な対応ができる。
- ③ 3年間の会長が決まっているので活動の継続性が確保できる。一貫性、研修などこれらがCLPの肝かなと思います。

3・成田RCのCLP導入1年目の反省

4・採用から10年がたち今ーCLPの4つの要素による検証

- ① 会員基盤の維持強化ーCLPの成果が端的に表れる所
48名から71名になり、財政規模も大きくなった
- ② 成果のある奉仕PJの実施

継続事業のほか毎年新しい社会奉仕活動の実施

昨年度は高田松原復元のためのチャリティコンサート実施し収益100万寄付

地元記者クラブと年3回の懇談を実施し記事に取り上げてもらうことにより地域での存在感を高めている

活発な委員会活動により、2700万の予算がしばしばショートするほど

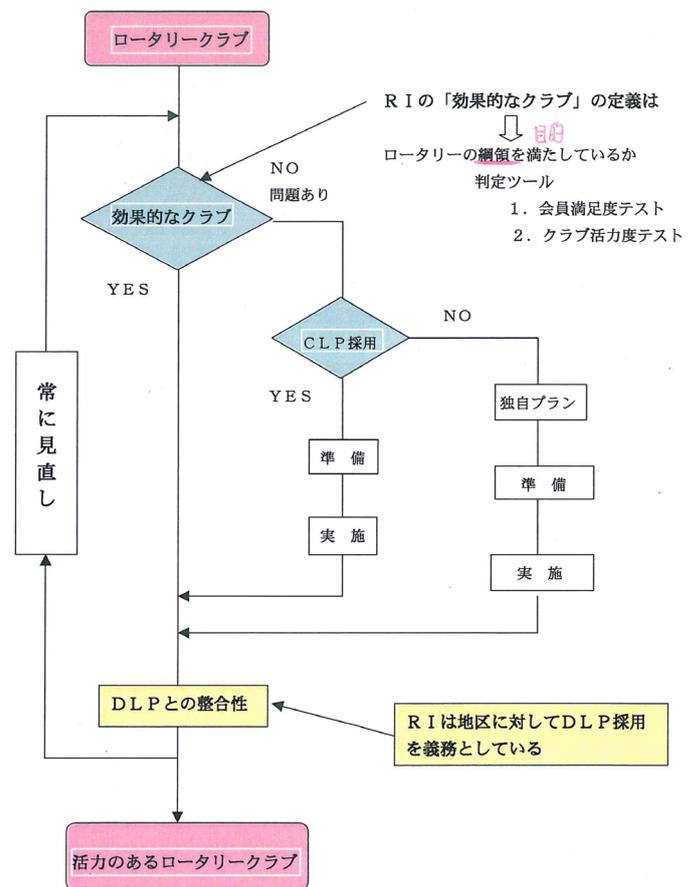
③ R財団への支援

財団、米山共に累積で地区内1位か2位

④ クラブ指導者の育成地区役員への出向は毎年多数いる。RUIに多数参加。DL12名で地区内最多。年間3.4回は新人研修の強化充実を図り退会防止も兼ねる。以上検証してみた。

5・CLP導入に失敗する主な要因

- ① 議論をせずに機械的に委員を貼1)付ける事は論外。
- ② 皆で考え、みんなで一緒に行動、同じ汗を流す事を持続しなければならないのでそのための定期的なチェック機関が無いーNのCLP委員会
- ③ 其々の事業の遂行にあたり、委員それぞれの役割を明確にせず目標達成の満足感を与えないー委員長は補助的役割に徹すべき。
- ④ 委員会活動に対しPDCAによるチェックをしない。事業の進捗状況の把握が無い。
- ⑤ 情報共有化の必要を無視し、委員会の開催があまり行われなければ一部の委員の活動となり従来型になる。
- ⑥ その他いろいろ



6・CLPについてはある人は良いといい、ある人は間違っているという。絶えずそのような議論にさらされている中で、だんだん多数派になって行くためには何人かが結束して引っ張っていかなければ元の組織運営にあつという間に戻ってしまいます。だれか大久保彦左衛門のような存在でCLP的でないときは声高に反対する人が必要かなと思います。上記のような要素を考慮し、息の長い改革を行ってください。

結果、必ず全員の理解とクラブの活性化はなされます。

最後に市原 RC さんが CLP を取り入れ、より活性化したクラブとなりますようご祈念いたします。

ディスカッション



司会（石橋・成田RC）：CLPに関する質問をお受けします。どなたかご意見ありませんか？

それでは私より指名させていただきます。山本PEさん、いかがですか。

山本PE：成田RCではCLPの導入前と導入後で、どのようにクラブが変化したのか。また、成田RCではCLP委員会という組織があると聞きましたが、どのような活動をしているのか、お聞かせ下さい。

設楽PP：CLP導入前は多くの委員会があり、一委員会は3名平均で運営されていました。その為に委員長が活動内容を一人で切り盛りするケースが多く、他の委員は傍観者になっていました。CLP導入後は組織が簡素化され、一委員会の委員数が増えましたので、委員会での意見が活発化し、全員で考え、全員で行動するようになり、クラブ全体が活性化しました。

松田・成田RC：CLP委員会ですが、CLPを導入して3ヶ月後に、この委員会を立ち上げました。各委員会がどのような活動をしているかをPDCA（Plane, Do, Check, Action）で検証するのが目的でして、チェックし、活動が停滞していたり、委員長が一人で委員会業務を行っていたりすれば、勧告し、修正してもらう。そんな役目を果たしています。

司会：お手元に配布しました組織図をご覧ください（PDF 4 頁目）。今、松田さんが説明しました点はこの表を見て頂くと、理解し易いかと思います。他にご質問をお持ちの方は挙手をお願いします。

西村会長：成田RCはCLP導入前にいくつの委員会を持っていたのですか？それが導入後にいくつに減少させたのですか？また、CLP導入と同時に3年委員化を計ったと聞きましたが、それがクラブのリーダーを育てるのに、どのように役立ったかをお聞かせ下さい。

設楽：成田RCは平山PGを輩出した時は80名を超える会員が在席していました。その10年後に私が会長になった時は48名に減少していました。委員会数は19委員会です。10年前と変わりません。会員数が6割になって、委員会数が従前通りということに疑問を感じて

いました。そんな折に白鳥ガバナー年度でRIが推奨するCLPなる存在を知ったのです。これを成田RCに導入すべきだと確信しました。

CLP導入と同時に3年同一委員会化を諮りましたが、これはCLP導入後3年で打ち切りました。会員の中から3年も同じ委員会に所属するのは、ロータリーを広く知る上で不都合だと意見が出てきたためです。

司会：加えまして設楽会長年度に、クラブ運営管理部門と奉仕実行部門の二つに大分類し、メンバーはこの二つの部門の各委員会に所属するようにしました。つまり2つの委員会に全員が所属する事とした訳です。

松田：市原RCの組織図を拝見しました。既に皆さんのクラブでは2大分類化がされているようですね。

西村会長：山本年度では一人一委員会所属を原則にして、委員会構成を考えています。その為に委員会数を極力少なくするように考えているのです。

松田：今年度の活動計画書を拝見しました。各委員会が目標とする活動内容に具体性が無いと思います。もっとこの計画書の2倍、3倍が記載されるようにしたいですね。目標が具体的に多く記載されているほど、CLP委員会のチェック項目が増えますので、各委員会の活動進捗状況がチェックしやすく、CLP委員会の指摘も多くなるのです。

司会：次年度の市原RCの組織図を見させていただきました。4年先の会長まで決まっていますね。これがCLPの最重要項目で、市原RCはCLPの何たるかを知っていらっしゃると思います。それでは次の方のご質問をお受けします。会長ノミニーに決まっています篠田さん、ご意見を頂けますか？

篠田：CLPについては成田RCを初め各地のRCを訪問し、事情を聞いてきた上條・万崎・西村会員から話を伺っており、ある程度は理解しているつもりでしたが、今日PDCAの話聞き、そこが大切なのだな、と実感しました。また、当クラブでは他の委員会の活動状況について、口を挟むことが遠慮される風習があり、長期計画委員会が指摘役を行っていかねばならないのでしょうか、その辺の進め方をご指導いただければ幸いです。

設楽：私どもではCLP委員会が各委員会の活動計画書の進捗状況をチェックしており、PDCAに沿って計画の実行度合いが遅れている委員会には指導勧告をしますが、市原RCでは長期計画委員会をお持ちですから、そこから指導するということになるのでしょうか。数字で進捗状況を掴む必要があります。例えば増強委員会が今期5名の新規会員獲得を目標にしている、2名しか増員が出来ていないとします。その時に残り3名を募集する具体的方法論をチェック機関と増強委員会メンバーで話し合っていく必要があります。また、長期計画委員会も変化していかねばなりません。柔軟な対応が必要です。

松田：市原RC細則を見させていただきました。5頁ですね。私どももCLP導入時点の細則は5頁でした。現在は12頁になっています。つまりPDCAを進める内に、細則に記載する事項が増えてきて、細則変更がされてきたのです。貴クラブでも細則変更を柔軟に行うことをお勧めします。

司会: 長期計画委員会はCLPスタート時は毎月行いました。PDCAを強化していく為です。それを怠ると複数年度の継続は不可能になります。

岡本幹事: PDCAは特別委員会を新設して行うのが良いのでしょうか?

司会: 市原RCの長期計画委員会も特別委員会ですね。その委員会がPDCAを行えばよろしいのではないのでしょうか。

設楽: 成田RCの特別委員会は長期計画委員会、CLP委員会、指名委員会、研修委員会があります。

司会: CLPの推進役の上條さん、何かご意見がございますか?

上條: 成田RCはCLP立ち上げに際し、1年半の長期間に30回以上の長期計画委員会を開催し、CLPに関するクラブ協議会を10回行ったと聞きました。当クラブは前年度に10回の長期計画委員会と5回の協議会を開催しましたが、会員全員がCLPを理解し、実行しようという雰囲気にはなっていません。それでも来年度はCLP導入を山本PEが決意したのですから、何としても成功させたいと思っています。全員で考え、全員で行動することが出来るクラブにするために、今期残り3ヶ月を含めて、何をやれば良いのか、それがCLPに関するクラブ協議会なのか、それとも各委員会の活性化なのか、長期計画委員会の活動内容の見直しなのか、アドバイスをお願いします。

設楽: 何でも良いですから、話し合いの機会を多く設けることです。各委員会では委員長は一步下がって、各委員に担当を持たせ、行動させることが、もっともクラブの活性化につながります。成田RCで入会8ヶ月の会員が、今は奉仕活動に積極的に挑戦しています。新人会員でも、その人を信じて担当を任せてください。委員長はまとめ役であり、一線の活動は控えた方が良いでしょう。

松田: CLP立ち上げの準備段階では会長を先頭に長期計画委員会、理事会が積極的に動かねばなりません。そしてCLP組織でクラブ運営を行いはじめた以降の段階では主役は各委員会になるでしょう。成田RCでは10組のホームミーティング組織を作りました。その10組がそれぞれにロータリー談義を行いました。酒を飲みながらのミーティングが多かったようです。それでも、ホームミーティングに欠席する会員が出てきます。そこでこの欠席組みの会員でひと組作りまして、全員が都合の付く日を選び、ホームミーティングを行いました。とにかく全員参加で話し合うことが必要です。

司会: 他にご意見・ご質問のある方はお手をお上げ下さい。

福原: 米山奨学会の寄付金を募集するに当たり、全員で寄付に参加してもらいたいと思うのですが、その方法はどのようにしたら良いのでしょうか。

司会: それは米山だけではありませんね。

松田: 富士山に登るのに駿河川側から登るか、甲斐側から登るか、どちらでも頂上を極めれば良いのです。方法は沢山あるかと思いません。

司会: 時間も過ぎております。最後に白鳥PG、何かお話がありますか?

白鳥: お三人に敬意を表します。ご指導ありがとうございます。皆でやるのがCLPで大切なことは解りました。実際に各委員長はどのように委員会の運営をしたら良いか、具体的に教えていただきたいと思いま

す。

設楽: 委員長はなるべく地区主催の研修会などに出席し、委員会の運営方法を身に付けると同時に、年間計画書を作成して具体的な目標を作成し、その達成に委員全員の協力を仰ぐ必要があります。

司会: 時間もかなり延長して討論頂きましたが、それでも多分、皆様消化不良の点もあったかと思います。今後は皆さんで繰り返し話し合い、CLPにチャレンジして頂きたいと思えます。成功をお祈りします。



西村会長・岡本幹事 千葉北RCの石井様、本日はお越し下さいましてありがとうございました。成田RCの設楽様、石橋様、松田様、CLPについての貴重な卓話をして頂きましてありがとうございました。

三木会員 ドンピシャという言葉があります。本日4月5日が結婚記念日です。54回目です。結婚したのは1964年(昭和39年)東京オリンピック開催、東海道新幹線開通です。「疾きこと夢のごとし」今年10月、満80才になります。ありがとうございます。

山本会員 成田RC 設楽様、石橋様、松田様本日は大変勉強になるお話ありがとうございました。

成田RC 設楽様・石橋様・松田様

鈴鹿シティー RC 小川一光様 4月も宜しくお願い致します。

■出席報告 前々回確定 60.52% 本日出席 24名
欠席 16名 本日出席率 63.16%

■点 鐘 市原RC 会長 西村芳雄